わが校の紹介

自立と自律する生徒がいる学校です

養父市立関宮中学校
校長　高井　徹

先日、校舎内を歩いていますと、生徒の下足箱が私の目に留まり、早速デジタルカメラで撮りました。

職員は誰一人として生徒の靴に手を加えてはいませんし、クラスの係の生徒が整頓しているわけでもありません。本校の生徒一人ひとりが、自立と自律の精神でやってくれているのです。「小規模校だからできるんだ。大規模校ではとてもとても・・・」「小規模校・大規模校・生徒が多い・少ない」そんな問題ではないと思います。生徒の心の持ち方だけの問題です。

この他、「しっかり挨拶ができる」「しっかりと掃除に取り組むことができる」など、本校では「基本的なあたりまえのことが、あたりまえのように自然にできる」学校です。このこと自体が本当の特色ある学校づくりであると思います。

きちんと整頓された生徒下足箱

生徒たちは、本校の校訓である『敬・愛・信』の教えをしっかり実行してくれています。このような生徒たちがいる関宮中学校です。私たち職員も大変誇りに思っています。

今後さらに、この実践を基本に据え、学校経営を推進していきたいと考えています。

教育のひろば　心の鏡

「子は親の鏡」と言われますが、同じく教師と児童生徒との関係についても言えます。「生徒は教師の鏡」なのです。

つまり、親は、教師は、児童生徒にそれほど影響を与えるくらいの親であり、教師でないとだめだということです。

ある学校教育相談の時、二人のうち一人の生徒が、「先生は私のことをちょっともわかってくれない。お父さんも、お母さんもおんなじだ」「そうだろうか。先生やお父さん、お母さんはみんなのことを分かろうと一生懸命だと思うよ」するとその時、もう一人の生徒が「心が見える鏡があったらなぁー」とつぶやきました。確かに、心が見える鏡があったらいい。しかし、現実にありはしないのです。ところが、このことは一理あって、心の大切さを物語っています。

「鏡とは」何をさして言うのでしょうか。それは、親や教師が子どもに対して真正面から向き合っていく姿勢であり態度そのものなのです。

大人たちは、ややもすると、忙しさを口実に「わかっている。聞かんでもようわかっている」とその場を終わってしまいます。子どもたちは「もう言わない。お父さんやお母さん、先生は私のことを分かってくれない。信頼できん」となります。そこには、信じ、信じられる心と心の関係は生まれてこないのです。

お父さん、お母さん、そして先生たち、子どもたちの心の中を鏡をあてて見てやっていただきたい。そして、子どもの声を納得するまで聞く（話す口より、聞く耳を）姿勢・態度をとってほしいのです。

まちの文化財

県文化財保護審議会が調査
～別宮のオキナグサ～

五月五日、兵庫県教育委員会と兵庫県文化財保護審議会が、別宮区の東鉢スキー場内に生育するオキナグサの現地調査に訪れました。

昨年、関宮町が兵庫県指定文化財の申請書を提出していたもので、今回、花の開花時期にあわせて調査が行われ、別宮区と市教育委員会が立ち会いました。

オキナグサは日当たりのよい草原に生える春の花で、長さ二〇センチほどの茎に赤紫色のつりかね状の花をつけます。花がおわると細い綿毛が針のように伸びて、老人の白髪のようになることからオキナグサと呼ばれています。

別宮区長の西谷茂廣さんは「別宮では昔からよく見られた花です。種から増やした花が、ちさと山荘のテニスコートの斜面に花畑のように密集して咲いています。見事です」と話しています。

昔は牛の放牧場などの草原が各地にありました。しかし今は牛も飼われなくなり、草原も姿を消しました。このためオキナグサの生育できる場所がなくなったのです。

審議会委員の武田義明先生は「兵庫県では絶滅危惧種となっています。これだけ群生している場所は、兵庫県下では別宮以外にないでしょう。人が草原を管理することで生きていくことができる草花です」と話します。

養父市教育委員会では、県下に誇れる「ふるさとの花」になってほしいと期待しています。

テニスコート斜面に咲くオキナグサ